＜参考＞様式第２号　　令和　２　年　２　月　21　日

豊明市議会議長　殿

豊明市議事課
2年2.21
分類　・　・　30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第75号受付

行政等視察報告書

議員名　　林　ゆきひろ

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年　月　日	視察先	視察項目及び成果等
令和２年１月30日 ～令和２年１月31日	長野県南佐久郡 佐久穂町 学校法人茂来学園 大日向小学校	イエナプラン教育による学校運営について ※大日向小学校は、日本で初めてイエナプラン教育に基づく小学校として設立された私立学校である。 今回は、その学校で開催している見学プログラム「がっこうさんぽ」に参加し、地域・自治体との関わり方、新しい教育に対する考え方、イエナプラン教育によるカリキュラム（ブロックアワー、ワールドオリエンテーション等）を学んだ。 詳細は別紙報告書のとおり

（注）別紙添付も可能とします。
（注）本報告書は５年間公開します。

視察報告書

林　ゆきひろ

長野県南佐久郡佐久穂町

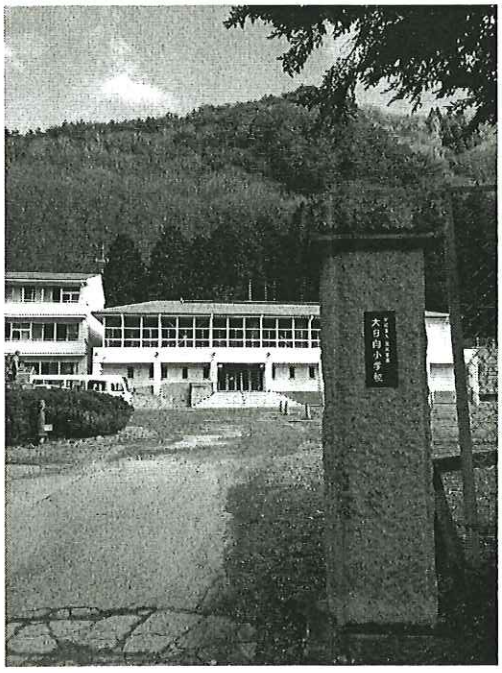
学校法人茂来学園　大日向小学校　（R2.1.31 視察）

１．視察目的

今回視察した大日向小学校は、日本で初めて『イエナプラン教育』に基づく小学校として設立され、メディアでも大きく取り上げられている。

『イエナプラン教育』とはドイツ・イエナ大学のペーター・ペーターゼン教授が始め、オランダで広がった学校教育であり、一人ひとりを尊重しながら、自立と共生を学ぶ教育である。

『イエナプラン教育』の主な特徴として、教室はリビングルームと呼ばれ、子どもたちが自分たちの責任において学び、生活できるように、リビングルーム内に「対話するスペース」「個別で集中して学ぶスペース」「共同で作業するスペース」など、様々なスペースが用意されている。学級は異年齢で編成され、人々が生活で必要な活動としている「対話」「遊び」「学習」「催し」の４つのパターンを循環させた計画の中で学ぶということを特徴としている。



大日向小学校　校門

これまで一般的に行われていた“教員が知識を伝え、子どもたちが一斉に習う”といった画一的な教育を、日本国内でも見直す動きがあり、その中でこの『イエナプラン教育』は参考にされ、各自治体の学校教育の中で取り入れていこうとする動きもある。

今回は、日本で行う『イエナプラン教育』の実態や現状を視察し、『イエナプラン教育』を行う上での課題、豊明市でも取り入れることができないか、取り入れる上でのメリット・デメリットは何かを学ぶために視察する。

２．　佐久穂町の概要

佐久穂町は長野県東部、南佐久郡の北部に位置し、町の中央を千曲川が流れ、西に八ヶ岳、東に茂来山がある自然豊かな地域であり、人口 10935 人、面積 188.13 ㎢、年間歳出決算総額は約 83 億円（豊明市は人口 69,058 人、面積 23.22 ㎢、年間歳出決算総額は約 211.78 億円）のまちである。

佐久穂町の学校は、平成 24 年 3 月末に佐久穂東小学校は閉校し、平成 27 年 3 月末に佐久中央小学校、佐久西小学校、八千穂小学校、佐久中学校、八千穂中学校が閉校して、平成 27 年 4 月 1 日から町内の小学校・中学校をそれぞれ統合して、町にひとつだけの学校として、佐久穂小学校・佐久穂中学校の施設一体型小中一貫教育校を開校した。

町では特色ある教育として、『１．小中一貫教育』『２．英語教育』『３．キャリア教育（ふるさと学習）』を掲げて教育充実に取り組んでいる。

３．　大日向小学校

大日向小学校　校舎

大日向小学校は、平成 31 年 4 月に開校した日本初の『イエナプラン教育』を取り入れた私立小学校である。平成 24 年 3 月末に閉校した「旧町立佐久東小学校」跡地を「佐久穂町イエナプランスクール設立準備財団」が約 3300 万円で購入し、開校に至った。校舎は 1992 年築で比較的新しい校舎であるため、ほぼそのまま利用された。

平成 30 年に中部横断自動車道「佐久穂 IC」が開通し、佐久穂町と高速道路が直結。東京から車で約 3 時間ほどでアクセスが可能となった。また、北陸新幹線「佐久平」駅から、JR 小海線や車で約 30 分ほどの立地条件である。佐久平駅からは大日向小学校のスクールバスもでている。

平成 31 年度の大日向小学校の募集予定では 30 名であったのに対し、70 名の子どもたちが入学した。また、その約 7 割が県外から入学にきているようで、佐久穂町内への移住も 40 名近くあった。

子どもたち 70 名に対して、１・２・３年生が合同で２クラス、４・５・６年生が合同で１クラスという形式で運営されており、2022 年からは中学校の開校も予定している。

大日向小学校の建学の精神として、「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくる」ことを掲げており、「その子どもが入学して家族全員が幸せになれるか」と

いうことを入学許可の判断基準としている。

また、学校づくりには、地域の方々との協力が大切と考え、準備段階から会議に地域の方々にも参加してもらい、現在も地域の方々から愛される学校となっている。学校の食堂『大日向食堂』は地域に開放されており、地域の方や保護者が自由にお茶や食事ができるようになっている。

大日向小学校では、そのままオランダで行われている『イエナプラン教育』を行うのではなく、『イエナプラン教育』のコンセプトや思想を大事にしながら、日本の形に合った『イエナプラン教育』は何か、佐久穂町における『イエナプラン教育』は何か、を常に教員全員で対話しながら学校運営を行っている。

4．　見学プログラム「がっこうさんぽ」

平成 31 年 4 月の開校から現在に至るまで、多くの方々から学校視察に関するお問い合わせがあり、見学の日程、定員を限定し、『見学プログラム「がっこうさんぽ」』として一般向けに見学を開始した。1 回の見学プログラムでの定員は 9 名。申し込みを開始して数分間で定員を大きく上回る応募があり抽選となった。

【活動スケジュール】
10:00　現地集合
10:45　校舎案内
11:15　ブロックアワー見学
12:05　学校ごはん（大日向食堂でランチ）
13:10　ワールドオリエンテーション見学
14:00　催し見学
14:45　振り返り
15:00　現地解散

大日向食堂　看板

５．　視察の所感

校舎内には、職員室の隣に開放的な談話スペースや、みんなが通るところに作品を常に展示しておけるスペースがあり、教室の中には、サークルをつくって対話できる場、一人ひとりの学習机、個別でパソコンに取り組めるスペースなど、子どもたちが選択して学習できるスペースが数々用意されていた。教室の棚には、歴史カルタやカードゲーム、漢字パズルなど、子どもたちが学習したくなるような教材が並んでおり、子どもたちの学ぶ意欲が誘発されるような工夫が随所に見られた。

最初に見学したブロックアワーの時間では、子どもたちはみんなバラバラで活動しているが、それぞれで集中して取り組んでおり、３人で歴史のカルタに取り組んでいる子もいれば、漢字ドリルに取り組んでいる子、図書館で本を読んでいる子もいた。どこにいるかは、ホワイトボードに示して行動しており、チャイムがなくても、みんな時計を見て行動していた。取り組んでいる内容は、自分で１週間の学習計画を立て、何に取り組むかを自分で考え、行動していた。子どもによっては計画どおりに取り組めていない子もいたが、教員が確認しながら対話を繰り返し行い、計画の修正や計画通りいくためにはどうすれば良いのかを教員と話し合っていた。

午後から見学したワールドオリエンテーションの時間では、「尊厳」をテーマに子どもたちが“自分のこと”“相手のこと”“社会のこと”を調べ、毎週成果を発表し合う。紙芝居にしたり、プリントを作ったり、動画にしたり、様々な形式で「尊厳」について考え、発表し合っていた。

『イエナプラン教育』は、子どもたちへの指導方法だけでなく、教室の配置、時間割など、現状の日本の教育と大きく異なると感じた。一見、子どもたちは自由奔放に過ごしているように見えるが、子どもたち自身が計画を考え、教員からアドバイスをもらいながら、学習内容を自分で選択して学んでいる。新しい単元に入る時、わからない単元があった時は、教員からのレクチャーもある。さらに教員同士でも常に対話を繰り返し行い、イエナプラン教育のコンセプトや思想を大事にしながら、学校運営、教室運営を行っていた。

文部科学省が推奨する「主体的・対話的な深い学び」を実践するには、こういったことを取り組んでいく必要があり、豊明市においても、改めて子どもの教育で大切にすべきコンセプトは何かを考え直す時期にきているのではないかと感じた。これからの時代では、教員は教えるということだけでなく、対話をファシリテーションしていくことが大切になってきている。豊明市でも、協同の学び推進事業を行っているが、さらに「主体的・対話的な深い学び」にするために、今回の視察は参考にすべき内容であると感じた。今後もどのようにしたら豊明市でも取り組んでいけるかを考えていきたいと思う。